

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	和歌山市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	和歌山市文化遺産活用活性化事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 23 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
和歌山市内の無形文化財や伝統芸能などの文化遺産を活かし、その文化遺産が根付く地域の活性化を推進するため、岩倉流泳法・岡崎団七踊り・和歌祭の後継者養成事業を実施し、それに伴い必要となる用具等整備事業を実施する。			
6 実施体制			
和歌山市教育委員会が、本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等を行う。また補助事業は次の団体が実施する。 和歌山市文化遺産活用活性化事業実行委員会 構成団体：和歌山市教育委員会 特定非営利活動法人WISC（「岩倉流泳法」関係団体） 岡崎団七踊保存会 和歌祭保存会			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 42,761 千円	平成31年度申請額： 990 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
和歌山市の文化遺産に係る情報発信を積極的に行うことで、地域の文化遺産に対する関心が向上し、同時に人材育成を行うことで、継続的に文化遺産に対する関心を維持していくことができる。 また無形文化財や伝統文化の後継者育成を行うことで、地域の文化遺産の質を保ちつつ、地域の帰属意識を高め、将来に継承していくことができる。 それらにより、文化遺産を活かし、その文化遺産が根付く地域の活性化を行い、さらに和歌山市全体の文化遺産に対する意識を高めることにより、対外的な観光資源としての活用も期待できる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	平成30年度から実施の「和歌山市歴史的風致維持向上計画」事業の一つである、伝統文化・民俗芸能を普及啓発するための次世代の担い手育成事業を、社会資本整備総合交付金で行う。		
事業概要：	和歌山大学紀州経済史文化史研究所が「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」で和歌祭の普及啓発や後継者養成を申請予定のため、これと連携・協力していく。		
事業概要：			
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
平成30年3月「和歌山市歴史的風致維持向上計画」認定			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	和歌山市 文化振興課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 1 :	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	岩倉流泳法保存会・岡崎団七踊保存会への参加住民数			関連事業:		
目標値 1 :	【現状値】 平成 23 年度 101 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 125 (単位)					
設定根拠 1 :	各補助事業の参加者数 (地域児童数の減少が続く中、毎年目標値 (総人数 125 人) の 80~85% の参加者がある。今後も 85% 以上の参加率を維持して行きたい。					
進捗状況 1 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	和歌祭への参加住民数			関連事業:		
目標値 2 :	【現状値】 平成 31 年度 1,000 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 1,000 (単位)					
設定根拠 2 :	紀州東照宮創建・和歌祭 400 周年 (2021・2022) に向けて重点的に整備活用を予定しているため、継承体制の維持を見込む。					
進捗状況 2 :	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	

